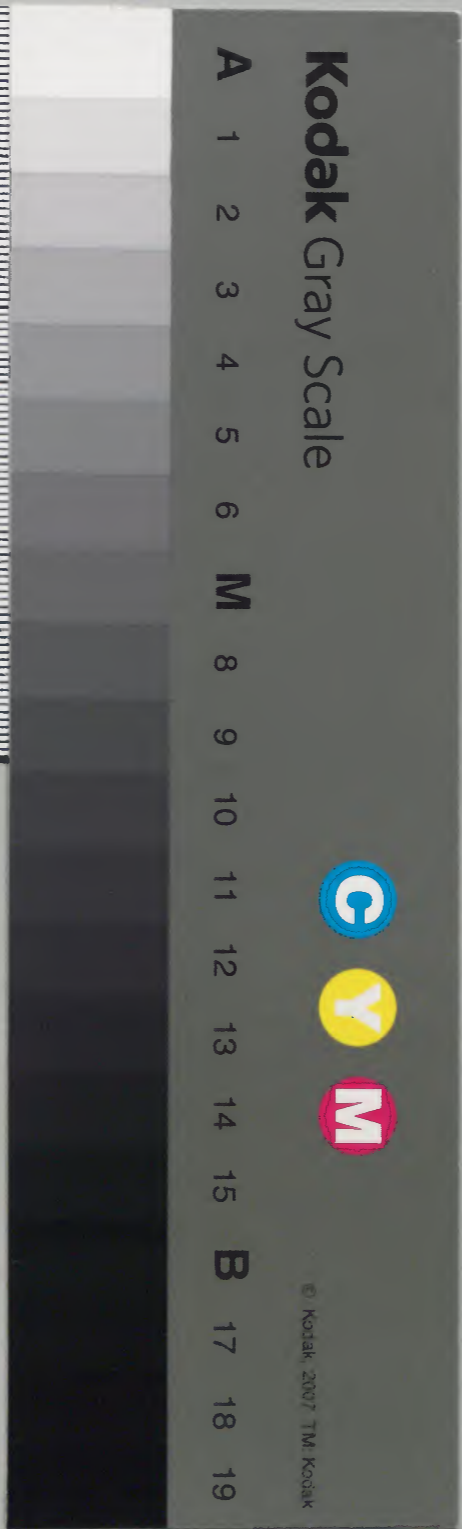


兩校物語卷之二 下

庫	文	閣	內
三	二	二	和
三	七	七	書
函	二	七	類
一	冊	號	
三	架		

二	三	九	二	七	二	七	七
冊	架	函	號	類	番	號	和
					2	7277	
					2	(2)	
					203	37	



あやういふまゝにききまはひ
ゆりしやうきくくくく
ふきききききききき
ゆりしてある二ツののほ
福をまねんよ心をまねん
まやうよまねんゆりし
ゆりしゆりしゆりし
かゝる文章の御古文た
多々よおとあひし
人かゝるまじりもまじ
トトトトトトトトト
一き女の恨きもあふか
うらむつををいひま
嫉妬の心をまねんま

これありきゆりしを 女 のえんどをい
くしゆりしはうらつきなういとか
あを 大 大やがまきしふの
らそたじりるるはうらつと思ひつゝあま
いとゆりしなくうさかひゆりしもう
由断る あまの かく 教 あ ぬ あ あ
をえもいさそがどかトもたけふらん
とふらまきをりしもゆりし 又 志 祿 人 よ

あやういふまゝにききまはひ
ゆりしやうきくくくく
ふきききききききき
ゆりしてある二ツののほ
福をまねんよ心をまねん
まやうよまねんゆりし
ゆりしゆりしゆりし
かゝる文章の御古文た
多々よおとあひし
人かゝるまじりもまじ
トトトトトトトトト
一き女の恨きもあふか
うらむつををいひま
嫉妬の心をまねんま

あやういふまゝにききまはひ
ゆりしやうきくくくく
ふきききききききき
ゆりしてある二ツののほ
福をまねんよ心をまねん
まやうよまねんゆりし
ゆりしゆりしゆりし
かゝる文章の御古文た
多々よおとあひし
人かゝるまじりもまじ
トトトトトトトトト
一き女の恨きもあふか
うらむつををいひま
嫉妬の心をまねんま

なびきくしてなびゆき

こゝ女の心言ひよきこが
りもびきくしてはてな
ちめさけいば女姑かと
くーくさつうーから
ぬさるたうーとまこ
かふやう。姿をよまよ
びふさるめとて次乃
後へうけて又さへー
うと死人よさへおぼてふ
さよや。

後撰集よかきせとも老
もかこれぬこのまよふ
のびりてもふせつづ
あり。白氏文集外人
不見見應笑。

らぐ

神代紀よかきせとも
いふ。神性の字とて又
仁徳紀よとてはぐま。昔
祥の字とてあて。性。う
ちれつきたるををいひ

ありやーほげよ。あう
さくめるがごとくひ

ーうごさかきよ。あひ
ちびきくをよびゆき。

それ女乃
えよふきかちちよふ人よさへうと

まれんとわりぬくあひつらうひうとさく
ま教かちのえい定
まみえは。あひそふせうやおもさんと。

はがかりをちてさうをよりてつきて。
えにくもあふぬやうにちれー
えさうくまに。

はがかりをちてさうをよりてつきて。
えにくもあふぬやうにちれー
えさうくまに。

えにくもあふぬやうにちれー
えさうくまに。

いふやうにあふぬやうにちれー
えさうくまに。

まがこひとらえん。んをさこめをけりしそ

のかみ。あひけりし。かう。あなうらよ

あひけりし。かう。あなうらよ

あひけりし。かう。あなうらよ

あひけりし。かう。あなうらよ

あひけりし。かう。あなうらよ

あひけりし。かう。あなうらよ

祥き所しをいふは
れどもきもまほ
詞之あよまればさうせ
のちがふごよめも同
なり。さうせりしと
きこそまらけきさうせ
いふ。さんばらうせと
いふ。不祥。又悪の字
をさうせり。

うぢなむも思ひて ひさしにいせ

乃舟也 たえぬべた ま女の なす き る は お か

かぢのりまればよまごふるうはおもひ

うなると思ひたもて わがと怒むるうにきりて

くつまのきさゆをさうせく 女 ま い 乃 ち ら

くちえひむら 言ひが か く お そ ま く

は た い ち き さ り ふ か く ま も 中 た え そ ま こ

え あ ん も ま ま か て か ぎ う と お り そ ご か く ま り

かき抱うこいひせよ 終 さ た な の く え

えんとおもさ ま の こ ま あ り も

祢ん そ な の り ま お り ひ る そ か も 抽 祢

とみの く ご う ま る ま い も あ た れ も 入 思

ふべき 言 ひ も 人 な み く い ま を さ り よ ま い も

まこ お と れ ま 人 よ ま り て お い な こ

あつれきさうりありに
あべがれはうかれおく
の約さしなる。○まうあ
いさうをれれむとハ散
あり大内百友あつま
るおれせむのりて百
官ちりくは降るま
かまひあををさす可

まの
ろひ侍かど。おのき
も思ふもくむなる。日ごろあまも
せうそくもはかそさげ。
あぐか化をり。けりくにア人
祭のてりかぐよ。夜あけていさうみ
る夜られくき。まるとあひさ
かど。
あつれきさうりありに
あべがれはうかれおく
の約さしなる。○まうあ
いさうをれれむとハ散
あり大内百友あつま
るおれせむのりて百
官ちりくは降るま
かまひあををさす可

願あつ。他、外去を
つふ。上は指をうづりては
そむていさうをさすべし。
下にゆらうとつあつるも
んをほていさうべし。
夏下の祭の酒系。臨時
の祭ハ宇多天皇此御宇
お後元十一月酉日。調
系ハ宇多前の子の御禮
ふおの。江家次第。諸
記録。委し。
おの。江家次第。諸
記録。委し。
おの。江家次第。諸
記録。委し。

まの
ろひ侍かど。おのき
も思ふもくむなる。日ごろあまも
せうそくもはかそさげ。
あぐか化をり。けりくにア人
祭のてりかぐよ。夜あけていさうみ
る夜られくき。まるとあひさ
かど。
あつれきさうりありに
あべがれはうかれおく
の約さしなる。○まうあ
いさうをれれむとハ散
あり大内百友あつま
るおれせむのりて百
官ちりくは降るま
かまひあををさす可

Faint handwritten text at the top of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

あつちうとみ祢とあふかこ乃

らあありえとけーと あ月の後さい み終へ

ざりーととがれどらやゆきぎに

あひゆりしよ るびが きろき抱はぬより七

うろとめたるいろあひーとゆりあ

可かーと ていどてあふ ますがふあさえすく

んぢらなをまへなえ ていどてあふ おりひやこく

Faint handwritten text at the top of the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

ーろんりし あ月の心ふあの中 中へて

思ひをありせしほをまじとあひのり

きもせぬ あふ女れやう小あおあうて男り たづぬ

あどいさんともく それ女もあまむひで

かやろー あふ男れん今まの 只あり

あづら あふ男れん今まの 只あり

あづら あふ男れん今まの 只あり

こればかりがなれし

是より又言ひかゆと
ついで申すの御もあはれ
まらしくはぢかぬの御の
いそく是より下の若
日くひあわとらふまを
先馬ののりふよりまを
めて申すの御もあはれ
うれはよはに同じくあは
てちかきまをいさげ回し
評よたも言われは二
人の御をいさげまを
ぬのくまをいさげまを
ふとらふまをいさげまを
氏をもつていさげまを
お女のそれいさげまを
つくまをいさげまを
るまをいさげまを
なまをいさげまを

かこりりるさればかの

まのも思ひいであるこふもさればさけ

まじとさきあはりてまへは

らちーくわーせびあきこるるもあ

りなる也

かこりーさきまをいさるるつこもさるる

しーの

吉祥天女

最勝王経
凡天帝釋の女を
端正といふ
八万四千
女墓の
ありたる
之伎と

おれればいづれと

ありぬると世の中やたかかき

くまをいさるる

よまかきまをいさるる

まひあせぬ人といづこよか

吉祥天女をおもひうまるといふ

かこりるさればかの

まはらきまをいさるる

うふふふと云ハ詩乃
 こと作文と云ハ詩
 つつと云ハ詩と云ハ
 ちやうどおとらふより
 ちやうどふと云ハ紫日記
 ちやうどおとらふより
 ちやうどおとらふより
 ちやうどおとらふより

文の... 假字... 文の...
 こがみふがむなと云ハ物をあまをせんむ
 べくく そを いまそー...
 師とてあるまづうたをうたをたふさ
 はずる...
 そのまんに...
 さい...
 さい...
 さい...

うふふふと云ハ詩乃
 こと作文と云ハ詩
 つつと云ハ詩と云ハ
 ちやうどおとらふより
 ちやうどふと云ハ紫日記
 ちやうどおとらふより
 ちやうどおとらふより
 ちやうどおとらふより

うふふふと云ハ詩乃
 こと作文と云ハ詩
 つつと云ハ詩と云ハ
 ちやうどおとらふより
 ちやうどふと云ハ紫日記
 ちやうどおとらふより
 ちやうどおとらふより
 ちやうどおとらふより
 うふふふと云ハ詩乃
 こと作文と云ハ詩
 つつと云ハ詩と云ハ
 ちやうどおとらふより
 ちやうどふと云ハ紫日記
 ちやうどおとらふより
 ちやうどおとらふより
 ちやうどおとらふより

わづら 冢發ツツとらふも

ひきまぢりすまを
のこくホアガ抄後を
つらうしといひちり
いふまをいふ

[Faint bleed-through text from the reverse side]

史 史記 漢書

後漢書

九經 毛詩 禮記 春

秋 周易 尚書

[Faint bleed-through text from the reverse side]

おとろしきや
むら川をさることつまらぬ記をして

いふんがさると武アをあむ免ふのみ
らまうなうといひちり

てまうしよるーからんことをアせと

せめ終るむいれようわづらまことハ

まうしひぢらんやうにまをまぬ まうしひぢらん

まへへ男七め七日ものいづら

まはるかまのさう終る くま せせつ

まんとおまをさういほし まんとおま

ま五經乃まらくーまかみ終るまうら

まよらうあまやんさうあまがらうな

まうらあまがらう まうらあまがらう

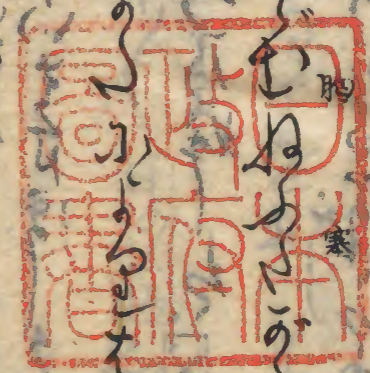
まといまらうお世なあまこのおほやま

ま ま くにづまてむらま志らびら

ま ま ーしあまらまをいひまら



Handwritten Japanese text in cursive style, including a signature and a date. The text is partially obscured by a red seal impression.



浪速

高載陽實

安永六丁酉年初夏

出雲寺文治郎
風月庄左衛門
吉田四郎右衛門
梅村三郎兵衛

